

道徳教育の充実に関する実践

～自尊感情や自己肯定感を高めるための道徳科の授業改善～

奥尻町立奥尻小学校 学級数9 (校長 赤井 優子)

I 実践テーマの趣旨

1 児童の現状と期待する成果

今年度の全国学力・学習状況調査児童質問紙の結果(第6学年)及び北海道道徳教育推進会議参加校によるアンケート結果(第1学年)では、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の「当てはまる」の回答率が全国と比べて低いなどの課題が見られた。また、学校評価・児童アンケートの結果分析(全学年)でも同様に、「自分のことが好きだ」、「自分は学級のために役立っている」、「自分は学級の友だちからたよりにされている」といった質問での「はい」の回答率が低く、学校全体の課題であることが分かった。

そこで、課題を解決するために学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図りながら、道徳的価値についての理解を基に、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重しながら、自尊感情や自己肯定感を高められるよう道徳科の授業改善を推進することにした。

【令和3年度全国学力・学習状況調査児童質問紙結果(第6学年)】

【令和3年度北海道道徳教育推進会議参加校によるアンケート結果(第1学年)】

「当てはまる」と回答	
自分には、よいところがあると思いますか	33%
将来の夢や目標を持っていますか	66%
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	50%
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	0%

「当てはまる」と回答	
じぶんには、よいところがあるとおもう	29%
しょうらいのゆめやまくひょうをもっている	86%
ものごとをさいごまでやりとげて、うれしかったことがある	43%
むずかしいことでも、しっばいをおそれないでちょうせんしている	71%

【令和3年度 学校評価・児童アンケートの結果(全学年)】

自分のことが好きだ 「はい」と回答			
第1学年	29%	第2学年	20%
第3学年	100%	第4学年	38%
第5学年	40%	第6学年	50%
全体	38%		

自分は学級のために役立っている 「はい」と回答			
第1学年	29%	第2学年	53%
第3学年	100%	第4学年	25%
第5学年	40%	第6学年	67%
全体	49%		

自分は学級の友だちからたよりにされている 「はい」と回答			
第1学年	43%	第2学年	27%
第3学年	100%	第4学年	50%
第5学年	20%	第6学年	50%
全体	42%		

II 実践の内容

重点的に取り組んだ内容は次のとおりである。

- 1 支持的風土を築く学級経営
- 2 道徳科の学習指導過程を明確にした授業実践

III 実践の概要

1 学級経営

学校において生活の基盤となるのが学級である。居心地のよい学級づくりのためには、何よりも自分の学級の実態を捉えることが必要である。自分の学級が児童にとって居心地のよい場所なのかどうかを振り返ることによって、児童の実態把握やよりよい学級集団づくりに向けた具体的な手立てについて考えなければいけない。道徳性を養うにふさわしい環境を整えるため、日頃から次の項目のようなことを心掛けた。

- ・失敗や間違いが気持ちよく受け入れられる環境
- ・どの子どもにとっても居心地がよい環境
- ・学び合いのある環境

また、人間関係づくりと集団づくりは、他者との信頼や協力、所属意識などに影響を与えるものである。そのため、「学級が心休まる温かさを感じられる場になっている」「自分の居場所があり所属意識をもてるものになっている」「みんなから認められ自尊感情を育むものになっている」ことなど、学級の人間関係の中に温もりのある関係性が存在していることを大切にしてきた。



【付箋を活用し、友達の「いいところ」を記入】

2 授業実践 第1学年「あなたって どんな人？」 日本文教出版 内容項目：個性の伸長

この教材で、人には様々なよさがあることに気付くことによって、自分の得意なことや苦手なことは何かを考え、自分の特徴に気付き大切にできるよう授業改善を図った。

指導過程では、「導入ー展開前半ー展開後半ー終末」において、ねらいを明確にし、それを達成できるようにした。

- ・導入：「みなさん一人ひとりには、どんなよいところがありますか。」とねらいとする資料への方向付けをした。
- ・展開前半：児童が登場人物と自分を重ねて考えられるよう、資料を読み、絵やアニメーションなどの活用により、登場人物の心情を想像し、想像したことを表現し合った。
- ・展開後半：資料から離れて内容項目について自覚を深め、道徳的価値の理解につながるよう、付箋を活用し、友だちの「いいところ」を記入し、お互いのよいところを認め合いながら交流した。また、保護者にも子どものよいところや学級のみんなへの励ましを書いてもらい伝え合った。
- ・終末：自分のよいところを友だちに書いてもらい、自分のよさを伸ばそうとする意欲付けを図った。

IV 実践の成果と課題

- 自分のよさを友だちから認められることで、自分自身の姿を客観的に捉えるきっかけになり、自分を肯定的に捉え、自分のよいところを伸ばそうとする意欲につながった。
- 各種アンケートの結果分析から、本校の子どもたちの状況を把握し、日常における学級経営や授業実践を通して、取組状況を検証することができた。
- 道徳科の授業を全学年で公開することで、家庭との共通理解を深め、児童の豊かな心を育むことに向けた連携を図ることができた。
- 自尊感情や自己肯定感を育てるために、発達の段階を踏まえ、学校全体で長期的に見通した指導を行っていく必要がある。